

	育成すべき資質能力	[S] Exemplary	[A] Accomplished	[B] Developing	[C] Beginning	備考
学 力	学びに向かう力	授業で獲得した知識・技能を基に、(進学後の姿勢も含めて)次に何をどう学ぶか、目標はどこか等、課題意識を持って学びを計画し臨める	授業内容を十分に理解し、重点を予習に傾け、授業中は予習での疑問や未理解の部分を補うことに充てられる。	理解度を深めるために予習を行い、授業中は専念し、学習内容の定着を図るために家庭で復習することができる	授業(学習活動、頭脳作業等)に集中できる	●数値化できる評価(得点、偏差値等)から離れ、授業に臨む基本姿勢[B]から、授業で十分獲得した後の発展的な姿勢[S]まで
	学びを継続する力	授業で獲得した知識・技能を基に、その内容に留まらず、自ら文献等で深めたり、学ぶ範囲を周辺(関連分野)に広げたりする意欲が持てる	授業内容を十分に理解し、高度な参考書や問題集に取り組み、理解できない箇所も放置せず、教師への質問で確実に克服する	授業から一歩進んで、考查、接続テスト、大学受験に向けて、発展問題や応用問題に取り組むことができる	毎日一定の家庭学習時間を設け、学習内容の繰り返し(再現)ができる	
	学びを活かす力	授業で獲得した知識・技能を基に、活かせる場面(各種オリビック、専攻する分野等)を模索し挑戦することができる	授業内容を十分に理解し、学校生活(FW活動、学校行事や部活動)や各種検定受験の場面で活かすことができる	授業での学習内容を生きた知識として扱おうとしている(漢字は積極的に用い、積極的にJETに話し掛け、身近な現象を解説しようと試みる等)	授業での学習内容を、級友や保護者との会話の中で話題にできる	
	学びを共有する力	授業で獲得した知識・技能を基に、相互に提供し、検討や協議等を重ねて深めたり(協働して学びを活かせる)、発信したりできる	授業内容を十分に理解し、教員のアシスト(下級生や欠席者に解説し、その確認のために質問を与える等)ができる	指示されたグループ学習を始め、自発的なグループ学習でも、出し惜しみなく教え、恥じることなく聴き、機会を活かそうと取り組める	グループ学習に参加(発言、会話、まとめ等)できる	
育成すべき資質能力	[S] Exemplary	[A] Accomplished	[B] Developing	[C] Beginning	備考	
探 究 力	課題を設定する力	着目すべき対象を見つけ、社会に提言できるような視点で課題(RQ)を見出すことができる	既知の事実といった対象に注目し、懐疑的な視点からの問い掛け(課題意識)ができる	様々な対象に興味関心を寄せ、自らに問い掛けること(調べ学習の動機付け)ができる	対象を注意深く観察し、状態や変化等を把握できる	●本校のFW活動における段階的目標
	情報を収集・整理・分析する力	必要な情報を必要なだけ獲得でき、必要に応じて自在に加工し、検証や提言に向けて活用できる	多角的に多様な情報を収集し、取捨選択して適切な質と量に整理できる。それを基に、自分の見解を持つことができる	図書館やネットを活用するだけでなく、フィールドに出ても(現地に赴いて、人に会ってetc)情報収集できる	図書館の利用(図書を選び、必要な箇所を書き抜くこと等)ができる。	
	論理的に思考する力	RQに対する仮説を立て、科学的に検証するのに適切な方法を突き止め、主張を立証できる	科学的検証の記述を理解でき、その論証の過程や手法に就いて、自分の見解を言える	論理的記述を理解できる。筋道の通った話を組み立てられる	質問の意図を量り、正対した回答ができる。	
	発信する力	学術論文の形にして著すことができ、セッションにも参加でき、さらに同じ分野の研究者とも連絡できる	説得力のある話を構築し、視覚的にも優れた図表等を駆使したプレゼンテーションができる	自分の考えや発見についてポスターに表現でき、それをを用いて聴衆に伝えることができる	自分が意図した内容を、正確な言葉と適切な字数で作文(発言)できる。	
育成すべき資質能力	[S] Exemplary	[A] Accomplished	[B] Developing	[C] Beginning	備考	
突 破 力	目標を見出せる力	SDGsといった世界的な取り組みやsociety5.0時代を見据えて、自らが将来社会貢献できるキャリアの広がりを見つけ、選択をすることができる。	社会の中での自己の義務や果たすべき役割を理解した社会観や職業観をもって、自己のキャリアをとらえることができる。	講演会や職場体験、職業インタビューなどを通して、社会で働くこととために学ぶ必要があることを理解している。	現在の社会について基本的な理解をしている。将来、自らが職業に就いて社会人としてキャリアを築くことを理解している。	●A Iが進んだsociety5.0においては、職業や職種の将来の存続を見通すことは困難である。そのような状況の中でも、自己のキャリアを実現しようとする力を養成する。 ●キャリアプランは自己実現を果たし、社会に貢献するための自らの計画である。自らの学力や能力、経験、自己の適性や資質を見つめ、社会の変容に対応できる計画である。
	目標を定め達成に必要な課題を見出せる力	自身の適性、能力、スキルをよく理解し、自己のキャリアが求める能力や資質などを冷静に比較して、目指す方向を絞り込むことができる。	進路行事、FW活動、教科学習などを通して得た知識や経験、各種検査や日頃の自分の興味関心等から分析した適性、様々な材料から自分を診断できる。	職業人講演会や職業インタビュー、職場体験を通して社会で働く自分を考え、自己の長所や将来のキャリアを考えることができる。	自分の長所や短所、特性を理解している。	
	目標達成のための計画ができる力	社会人としてキャリア形成を考え、そこに至るためのキャリアプランを面談や進路ガイダンスを通して作成し、学びの意欲を高め、能力を向上させることができる。	自己の力を生かすために、キャリアパスを絞り込み選択教科の決定ができる。ドリームプランを作成し、本校を卒業した後の学びと身につけるべき能力を考えることができる。	将来就きたい職業に至るまでのキャリアパスについて、興味を持ち、調べている。	本校で学びを通して、自己実現を図っていく意欲を持っている。	
	目標到達のための計画を実行できる力	キャリアプランに沿って、自らのキャリアを積み重ねるために、自己の学びの習慣や生活習慣を律し、努力を続けることができる。	考查や各種テストなどの段階的な目標に向けて学習計画を立て、毎日の生活習慣を自ら管理し、それらを振り返るというサイクルを行うことができる。	学習や生活の計画と記録をルティ手帳に記入することを通して、将来のキャリアにむけて、学校生活を主体的に過ごすことができる。	基本的な生活習慣が確立しており、けじめのある家庭生活と学校生活を送ることができる。	
育成すべき資質	[S] Exemplary	[A] Accomplished	[B] Developing	[C] Beginning	備考	
協 働 する 力	自己を動かす力	新規の役割も率先して担い、全力を挙げて(力不足の部分は学んで補いつつ)これを成し遂げる。過程や結果を蓄積させ、次に繋げる意欲を保持する	自身の能力や経験値を知って、自ら役割を担う。より良い結果に結び付くよう、工夫と改善で取り組み、ほほ期待に応える水準でやり終える	与えられた役割りは拒まず、結果はどうあれ、持てる力を発揮して根気強く取り組むことができる	自らの意志で保護者や教師の指示に従う等の自己制御を含めて、自発的な行動がとれる	●どのように社会・世界と関わるかを追求する姿勢こそ、社会を作って生きている人間の在るべき姿であるとした。それを「人間としての意欲」と表した ●社会規範、公共心等の人としての基礎力は、人間の在るべき姿の中に集約した ●ここに挙げた4つの力(自分を出発点に外へと広がる)が備わることで、社会を構成する一員としての自信となり、人間としての意欲へと繋がる
	人と親和する力	様々な価値観を持つ人ともコミュニケーションがとれ、円満で生産的な関係を構築できる(とともに、そこから人を発奮させることができる)	誰とも繋がりを持つこと(FWでの聴き取り調査、学校行事での案内等)ができるとともに、相手にもより良い存在でありたいと感じることができる	本校の生徒であれば、初対面の相手でも自ら話し掛けることはできるし、会話することもできる。相手を慮ることができ、繋がりを実感できる	挨拶ができる。自分の考えを伝えるだけでなく、相手の言葉にきちんと耳を傾けることができる	
	集団を構成する力	どのような集団にも溶け込み(目指すことに共感し、期待を自覚して)、構成員個々に配慮しつつ調和を図って、より強い絆を持つ集団に発展させられる	所属する集団(本校、部活、クラスetc)内で、より良い繋がりを作ろうと働きかけ、達成感や分ち合える集団が作れる	本校の一員という自覚(所属意識)を持ち、私情に優先させてルールを遵守して活動でき、活動をとおして連帯感を味わうことができる	集団が成立する根拠を理解して、集団行動(構成員の活動や働きに即した行動)が取れる	
	集団を動かす力	場面に応じて自らの役割を変え、構成員の知識や能力を引き出し、活用できるよう調整し、集団の持つ潜在能力を全て発揮させて、より高度な成果に導ける	目的が明白で意見が集約しやすい集団においては、自身の役割に応じて具体的な行動を提案し、活動全般を率いたり、分担を完遂して成果に繋げられる	同じ係や委員会の生徒間で、話し合いで相互に納得のいく分担を決める場を仕切れる。活動全体を俯瞰し、建設的な意見や具体的な提案ができる	構成員に、所属する集団の役割を配分・指示できる。取り組み状況に応じて支援や援助ができる	
ステージについて		*各ステージが修了する段階で身に付ける段階、それ以前に体得する者もいれば遅れをとる者もいる [S];第Ⅲステージ(6学年)修了時、[A];第Ⅱステージ(4学年)修了時、[B];第Ⅰステージ(2学年)修了時				*[C]は、1学年終了時に全員が身に付ける段階であるとともに、入学に当たって検査している適性の観点(基準レベル)でもある。そのため、既に入学時には全て体得している者も多にいる